

両国観光まちづくりグランウドデザイン

両国観光まちづくりグランドデザインの策定にあたって

両国地区は、江戸の時代から歴史と文化に育まれ、相撲、葛飾北斎をはじめ、伝統工芸、水辺など、世界に誇れる豊かな地域資源に恵まれた地域です。

そこでこの地域資源にさらに磨きをかけ、発信することにより、平成24年5月に開業し賑わいをみせる東京スカイツリーとの相乗効果を発揮させ、来街者の区内回遊性を高め、墨田区全体の活性化につなげたいという考えから、「両国観光まちづくりグランドデザイン」を策定いたしました。

本グランドデザインの策定にあたっては、大下茂委員長（帝京大学経済学部観光経営学科長・教授）をはじめとして、両国観光まちづくりグランドデザイン策定検討委員会の委員の皆様には、専門的な視点からご検討いただき、貴重なご意見をいただきました。委員の皆様には、この場をお借りし厚くお礼を申し上げます。

今後、地域の皆様とともに、両国地区が、「粋に暮らし、粋に愉しむまち」となるようまちづくりを進めて参りますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

墨田区長 山崎 昇

両国のこころ配りを形にする

～生き様、暮らしの型を重ねることから…

過去からの延長上に現在の我々の暮らしがあり、それへの憧れを感じて当地を訪れる。そして将来もまた、現在の延長上にある。これこそが両国観光まちづくりグランドデザイン策定において最も大切にしたい考え方である。不連続な将来の夢を追い求めることなく、地域の記憶を大切に受け留めた上で、現在の両国での暮らしの思いを地域に重ね、次の世代へと襷掛けでつなげていく。

両国には、数え切れない程の惹きつける力がある。当然ながら住民の数だけ暮らしの型があり、来訪者もまた千差万別の両国の光に魅せられて期待をもって地域をめぐる。その根底にあるものが、両国ならではの「気遣い」であり「こころ配り」であろう。

現在わが国が進めようとしている観光まちづくりの原点が両国には既に備わっている。住民の方々、そして訪れた人々を応援団・サポーターとして迎え入れ、両国の生き様・暮らしの型を全国・世界に発信する。そのために、地域への思いやりと皆様方の力をこのグランドデザインに重ねていただき、新しい観光まちづくりの潮流となるべく、「両国をこよなく愛する人」の力が結集されることを祈願しています。

両国観光まちづくりグランドデザイン策定検討委員会を代表して
委員長 大下 茂

1	両国観光まちづくりグランドデザインの位置づけ	1
	策定目的	
	策定エリア	
	本計画の広域的な位置づけ	
	両国観光まちづくりグランドデザインの特徴	
	墨田区計画における本計画の位置づけと流れ	
	検討スケジュール	
2	両国地域の現況 ～数字で見る両国～	3
	両国地域の暮らし	
	両国地域の産業	
	両国地域の交通	
	両国地域の観光	
3	両国地域の特性	5
	両国地域のまちの構造と資源	
	両国地域の特性	
4	コンセプトと将来像	7
	両国観光まちづくりグランドデザインのコンセプト	
	両国観光まちづくりグランドデザインの実現イメージ	
5	施策展開と展開のプロセス	9
	施策展開のテーマと方針	
	魅力を引き出す効果的な視点	
	施策展開のプロセス	
6	両国観光まちづくりグランドデザインの地域展開	11
	施策テーマの地域展開	
	まち歩きを中心とした地域展開	
7	実現に向けて ～取り組みの積み上げ～	13
	ひとりひとりが主人公の観光まちづくりへ	
	両国観光まちづくりの担い手	
8	区民意見と今後の取り組みの方向性	14
	今後の取り組みに向けた区民等からの意見収集	
9	両国観光まちづくりグランドデザインの目標	15
	両国観光まちづくりの到達目標	
	両国観光まちづくりグランドデザインの波及	
	資料編	16

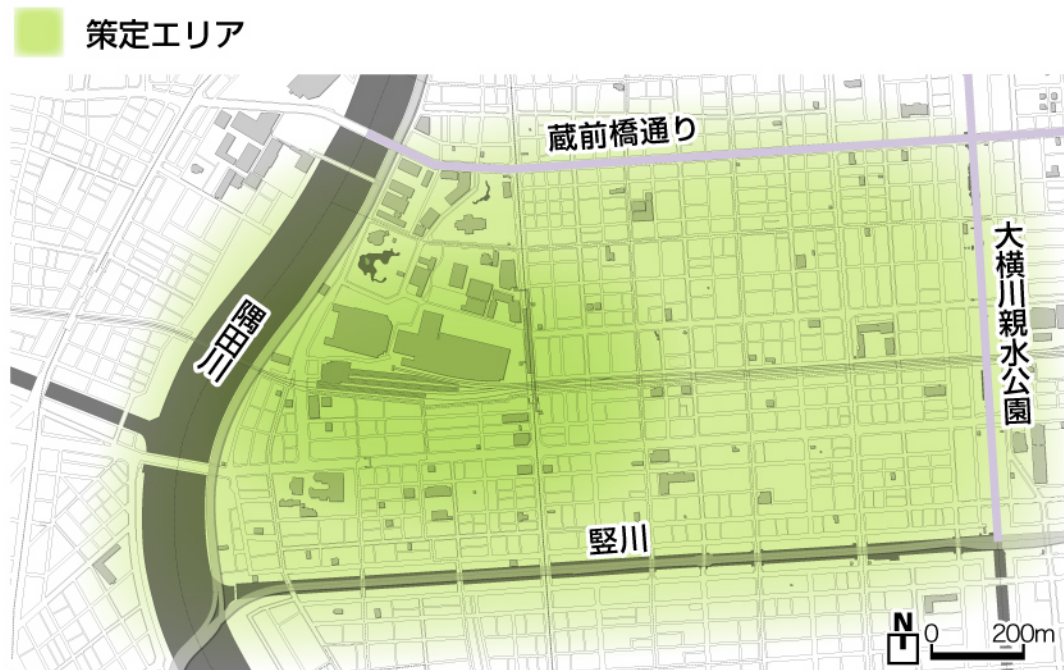
1 両国観光まちづくりグランドデザインの位置づけ

策定目的

東京スカイツリーが開業し、墨田区に多くの注目が集まる中、両国地域の貴重な観光資源を輝かせ、両国らしいまちの賑わいを呼び覚まし、両国地域の魅力の底上げを図ることで、押上・業平橋地区からの回遊性を促し、墨田区のさらなる魅力の向上を図ることを目的に、両国観光まちづくりグランドデザインを策定します。

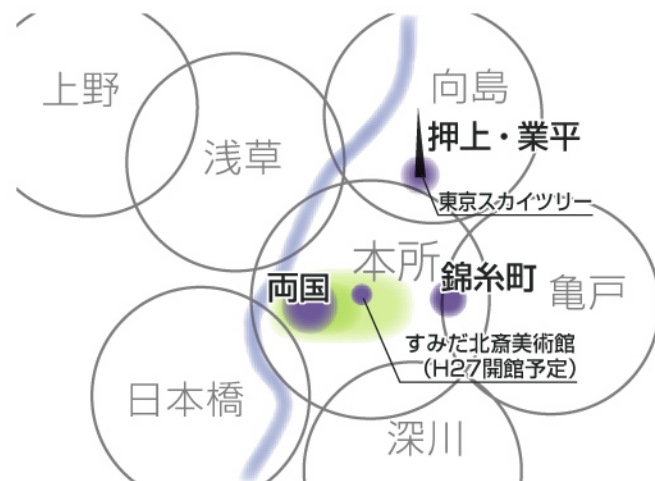
策定エリア

本計画の策定エリアは、概ね隅田川、竪川、蔵前橋通り、大横川親水公園に囲まれたエリアとします。



本計画の広域的な位置づけ

両国地域は、歴史的に隅田川を軸とした浅草や日本橋等の下町文化圏エリアです。一方、東京スカイツリー開業に伴い墨田区内のまちの動きや集客、人の流れに変化が生じています。そうした歴史的背景や、周辺の状況を踏まえ、本計画は両国地域に留まらず、他地域との広域観光ネットワークを視野に入れた計画とします。



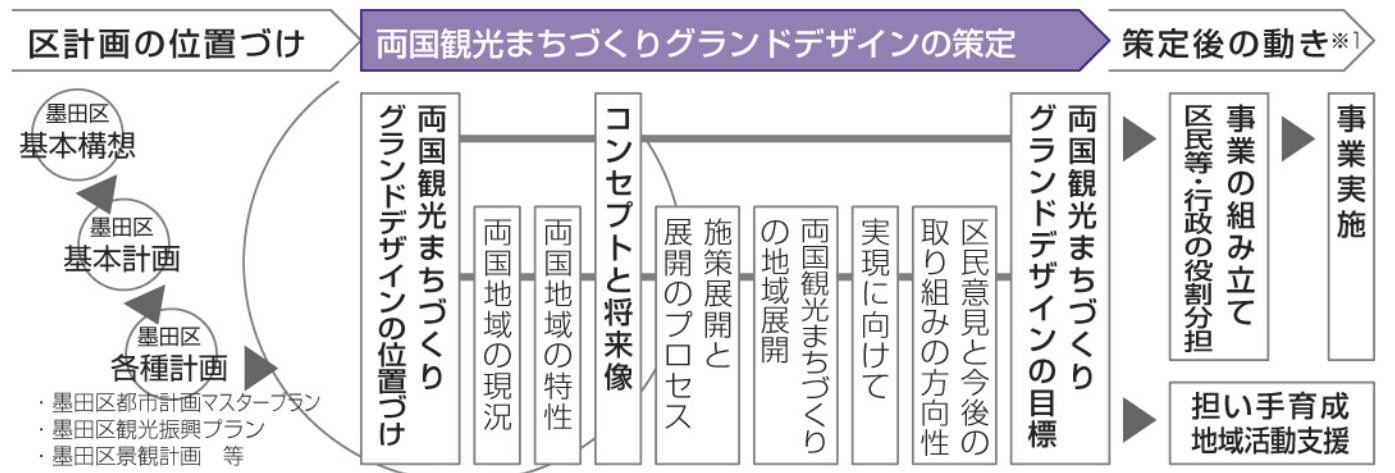
両国観光まちづくりグランドデザインの特徴

本計画は、従来型観光振興の「発掘→磨く→発信」のプロセスに、「編集」の工程を加え、両国固有の魅力を両国らしく編集し、発信することで、まち全体の魅力の底上げを図ります。



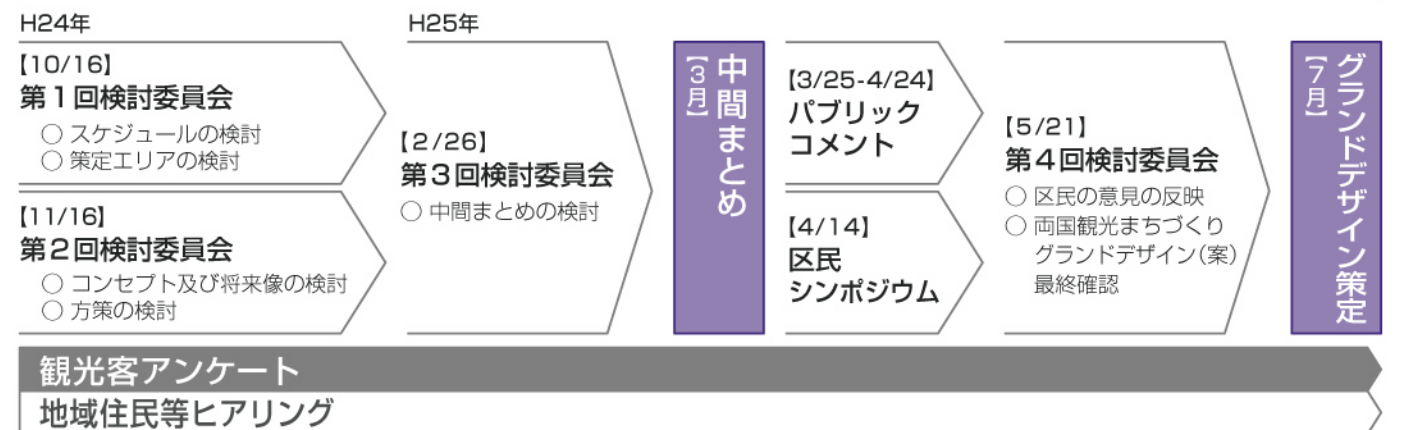
墨田区計画における本計画の位置づけと流れ

墨田区計画全体における本計画の位置づけ及び全体フレーム、計画の流れは下図の通りです。



検討スケジュール

本計画は、検討委員会*2を中心に下図の流れで検討を進めました。



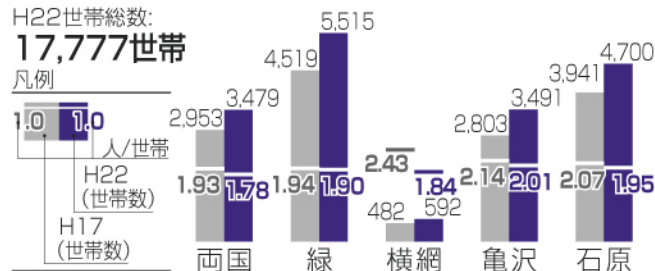
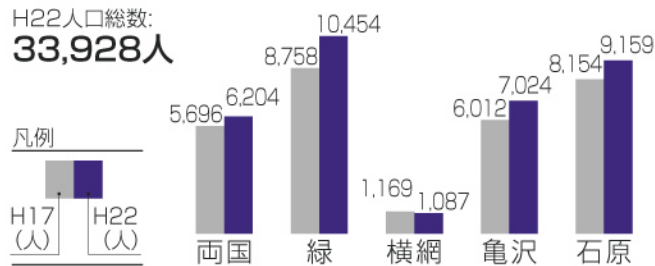
*1 具体的な事業展開については、住民、事業者、区等で協議を重ねながら進めていきます。
*2 本計画案は、学識経験者、地元関係者、行政関係者によって構成された「両国観光まちづくりグランドデザイン策定検討委員会」によって検討されました。

2 両国地域の現況 ～数字で見る両国～

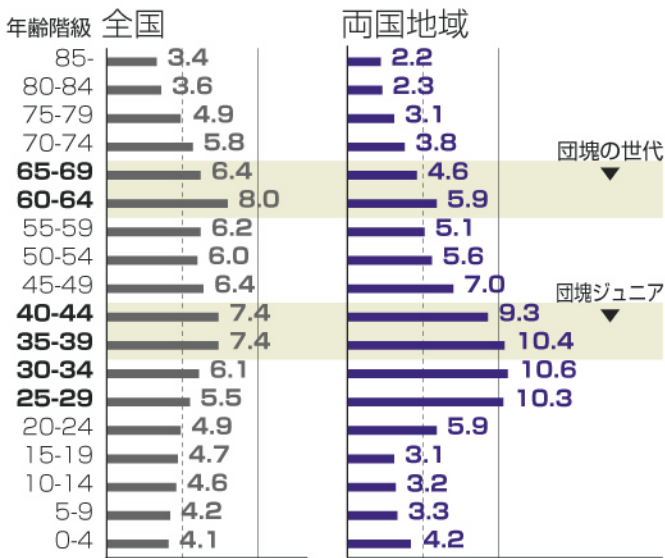
両国地域※の暮らし

- ・人口総数、世帯総数は増加傾向にあるのに対し、一世帯当たりの人員は減少傾向にある。
- ・20代後半から40代の若年世代が多く、60代の団塊の世代以上の年齢層は少ない。
- ・土地利用では、集合住宅割合の増加と住居併用工業用地の減少が見られ、住工商共存の下町の暮らしからマンションの林立する都市居住の暮らしへと変化していることがわかる。

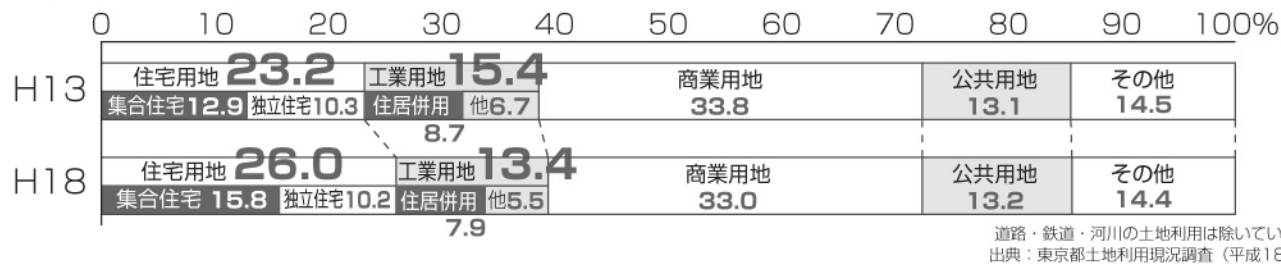
両国地域の人口と世帯



両国地域の年齢

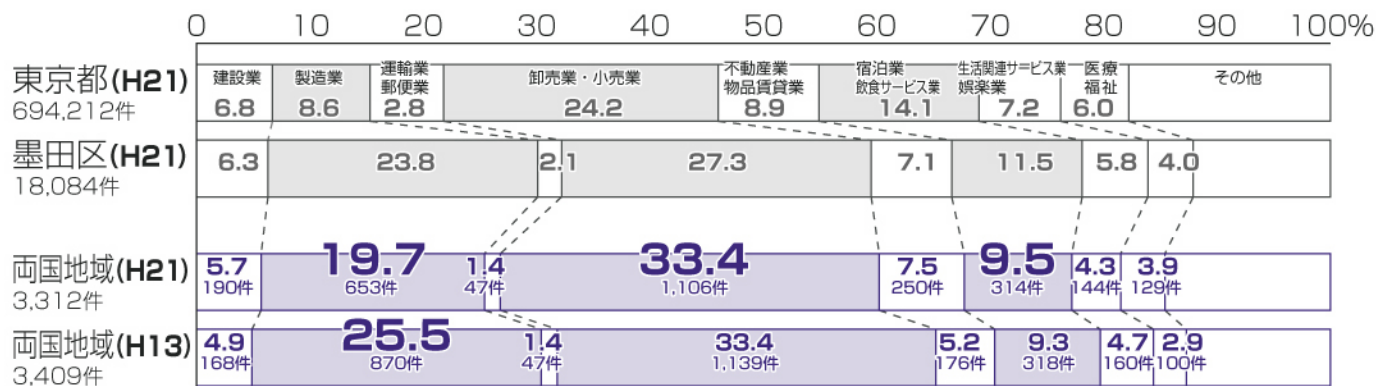


両国地域の土地利用



両国地域※の産業

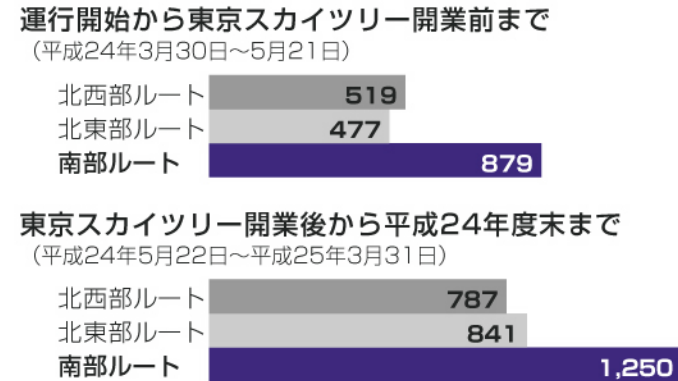
両国地域は製造業、卸売業・小売業が多い。製造業のうち、繊維工業が約3割を占め、印刷関連業が約2割、金属製品が約1割を占めている。卸売業についても繊維・衣服等が約1/4を占めており、布帛、印刷、金属のものづくり、商いのまちであることがわかる。



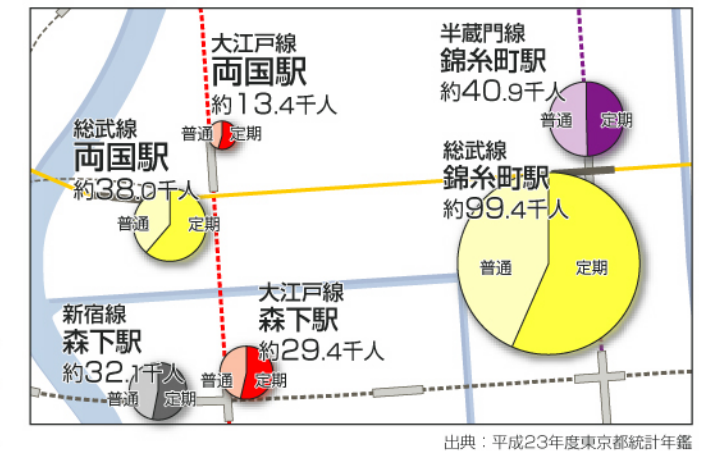
両国地域の交通

- ・区内循環バス利用者数は、両国地域を通る南部ルートが最も多い。また、運行開始から東京スカイツリー開業を経て大幅に増加していることがわかる。
- ・両国駅と隣接駅の乗客数を比較すると、総武線、大江戸線ともに約4割に留まっている。一方、主に通勤・通学と考えられる定期利用者の割合は錦糸町駅と比較して5%ほど高い。

区内循環バス利用者数※ (単位:人/日)



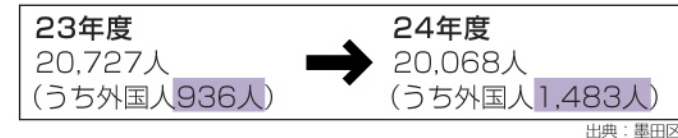
両国駅周辺の交通機関乗客数 (一日平均乗客数)



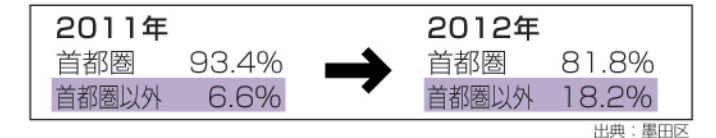
両国地域の観光

- ・主要観光施設は、江戸東京博物館が年間100万人を超え、両国観光の中心施設になっていることがわかる。一方、花火資料館、相撲博物館については、ほぼ横ばいとなっている。
- ・2012年になると、首都圏以外からの発地の割合が約3倍に増えている。
- ・平均滞在時間は、両国・本所エリアが最も長い。宿泊施設の集積が反映されたものと考えられる。

両国観光案内所来訪者概数



墨田区来訪者の発地※2



両国地域まち歩きツアー参加者数

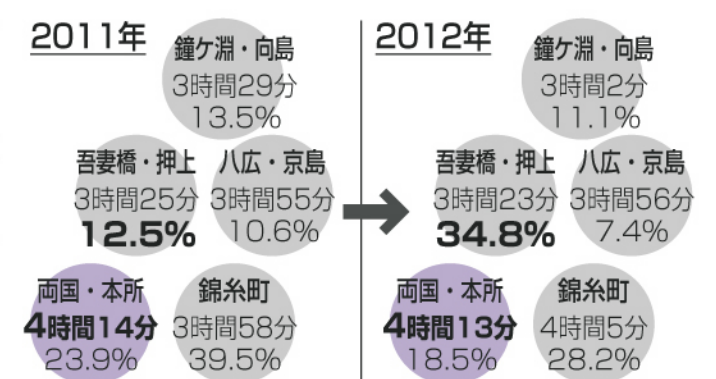


主要観光施設入込客数

	22年度	23年度	24年度
江戸東京博物館	1,233,605	1,204,030	1,124,902
花火資料館	5,908	4,784	4,762
相撲博物館※1	58,669	53,782	55,315

出典: 墨田区

区内各エリアごと平均滞在時間と来訪割合※2



※1 1月1日～12月31日の統計データ

※2 スカイツリー開業前と開業後の各1ヶ月間、GPSデータによる位置情報調査を実施。3,000サンプル収集。両国・本所エリアは両国・千歳・立川・菊川・緑・亀沢・横網・石原・本所を示す